

14 参考

(1) 観察対象の範囲

観察対象は、次の表に示すとおりである。

地域範囲	昭和18年以前	沖縄を含む旧内地(樺太を除く)
	昭和22～25年	北海道、本州、四国、九州に属する地域のうち、北海道根室支庁の一部、東京都小笠原支庁、島根県竹島、鹿児島県大島郡十島村北緯30度以南、沖縄全県を除く地域
	昭和26～47年	昭和26年12月5日以降：鹿児島県大島郡十島村北緯29～30度(吐噶喇列島)を含む 昭和28年12月25日以降：同村北緯29度以南(奄美群島)を含む 昭和43年6月26日以降：東京都小笠原村を含む
	昭和48年以降	沖縄を含む。したがって、北海道、本州、四国、九州に属する地域のうち、北海道根室支庁の一部、島根県竹島を除く地域
観察対象の地域的属性	昭和18年以前 昭和22年以降	死亡の場所が前掲の地域にあるもの
観察対象の人的範囲	昭和18年以前	死亡者の本籍が沖縄、樺太を含む旧内地にあるもの
	昭和22年以降	死亡者の本籍が北海道、本州、四国、九州及び沖縄にあるもの(昭和58年3月以前には、北海道根室支庁の一部は含まない)
観察期間	大正11年以前	各年1月1日から翌年3月31日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
	大正12～ 昭和18年	各年1月1日から翌年1月31日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
	昭和22年	各年1月1日から12月31日までに届け出られたもののうち、同年中に事件発生のもの
	昭和23～42年	各年1月1日から翌年4月14日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
	昭和43～45年	各年1月1日から翌年2月14日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
	昭和46年以降	各年1月1日から翌年1月14日までに届け出られたもののうち、1月1日～同年12月31日までの期間に事件発生のもの
都道府県の分類の基準	昭和18年以前 昭和22～24年	発生地に基づき各年1月1日現在の行政区画によって分類
	昭和25～46年	死亡当時の住所に基づき事件発生当時の行政区画によって分類
	昭和47年以降	死亡当時の住所に基づき届出当時の行政区画によって分類

(2) 用語の解説

年 齢 : 死亡時の年齢である。

職業・産業 : 職業・産業の分類は、平成7年国勢調査及び平成12年国勢調査に用いた職業分類・産業分類の大分類に準拠している。

配偶関係 : 法律上の婚姻関係による。

心疾患

- ・急性心筋梗塞
心臓に酸素や栄養を送る冠状動脈が閉塞して心臓の筋肉が壊死を起こす疾患で激しい胸痛を伴う。
- ・その他の虚血性心疾患
狭心症等、心臓に酸素や栄養を送る冠状動脈が狭窄し、血流不足となって発症する疾患。
- ・不整脈及び伝導障害
不整脈には心臓を拍動させる刺激発生の異常と伝導障害によるものがある。伝導障害とは刺激の伝導経路に障害が起きた状態。
- ・心不全
心臓のポンプとしての機能が衰え、血液を送り出したり、戻ってきた血液を取り入れられなくなった状態。

脳血管疾患

- ・くも膜下出血
脳動脈瘤が破裂して、脳のくも膜下腔に出血を来す疾患で激しい頭痛を伴う。
- ・脳内出血
脳の微小動脈瘤の破裂等により、脳内に出血が起きた状態で出血の部位によって症状や重傷度が異なる。
- ・脳梗塞
脳の血管が閉塞して脳が壊死を起こす疾患で主に動脈硬化による脳血栓症と、血管内に生じた血栓によって脳血管が閉塞する脳塞栓症とがある。

(3) 比率の解説

① 総粗死亡率

$$= \frac{\text{年間の総死亡数}}{\text{10月1日現在の日本人口}} \times 100,000$$

② 心疾患(脳血管疾患)粗死亡率(総数・男・女)

$$= \frac{\text{年間の心疾患(脳血管疾患)死亡数(総数・男・女)}}{\text{10月1日現在の日本人口(総数・男・女)}} \times 100,000$$

③ 年齢階級別心疾患(脳血管疾患)粗死亡率(総数・男・女)

$$= \frac{\text{年間の年齢階級別心疾患(脳血管疾患)死亡数(総数・男・女)}}{\text{10月1日現在の日本人(総数・男・女)の年齢階級別人口}} \times 100,000$$

④ 性・年齢階級・配偶関係別心疾患(脳血管疾患)粗死亡率(男・女)

$$= \frac{\text{年齢階級・配偶関係別心疾患(脳血管疾患)死亡数(男・女)}}{\text{国勢調査による年齢階級・配偶関係別人口(男・女)}} \times 100,000$$

注：配偶関係は、総数・有配偶・未婚・死別・離別である。

⑤ 性・職業(産業)別粗死亡率(男・女)

$$= \frac{\text{性・職業(産業)別死亡数(男・女)}}{\text{国勢調査による性・職業(産業)別人口(男・女)}} \times 100,000$$

⑥ 1日平均心疾患(脳血管疾患)死亡数

$$= \frac{\text{月間の心疾患(脳血管疾患)死亡数}}{\text{当該月の日数(30、31、28又は29)}}$$

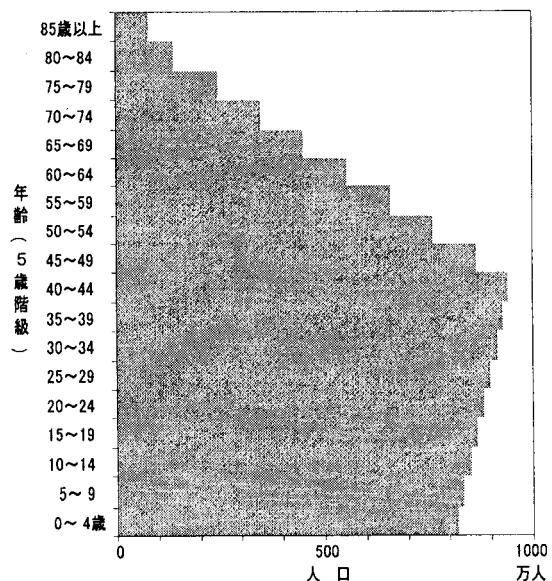
⑦ 心疾患(脳血管疾患)年齢調整死亡率

$$= \frac{\text{(観察集団の年齢階級別心疾患(脳血管疾患)粗死亡率} \times \text{基準人口集団の年齢階級別人口)} \text{の総和}}{\text{基準人口集団の総和}}$$

年齢調整死亡率とは、年齢構成の異なる人口集団の間での粗死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別粗死亡率について、その年齢構成の差を取り除いて比較ができるように調整した粗死亡率をいう。
本報告では国際比較を除き、基準人口は、昭和60年モデル人口である。

基準人口 - 昭和60年モデル人口 -

年齢	基準人口
0~4歳	8 180 000
5~9	8 338 000
10~14	8 497 000
15~19	8 655 000
20~24	8 814 000
25~29	8 972 000
30~34	9 130 000
35~39	9 289 000
40~44	9 400 000
45~49	8 651 000
50~54	7 616 000
55~59	6 581 000
60~64	5 546 000
65~69	4 511 000
70~74	3 476 000
75~79	2 441 000
80~84	1 406 000
85歳以上	784 000
総数	120 287 000



注：昭和60年モデル人口は、昭和60年国勢調査人口を基礎に、ベビーブームなどの極端な増減を補正し、四捨五入によって1000人単位としたものである。

—世界人口—

World standard population

Age group	World
0 Years	1 800
1～4	7 000
5～9	8 700
10～14	8 600
15～19	8 500
20～24	8 200
25～29	7 900
30～34	7 600
35～39	7 200
40～44	6 600
45～49	6 000
50～54	5 400
55～59	4 600
60～64	3 700
65～69	3 000
70～74	2 200
75～79	1 500
80～84	900
85+	600
Total	100 000

資料:WHO「World Health Statistics Annual」

(4) 死因年次推移分類の変遷

死 因	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	
	M32～39年 1899-1906	M40～41年 1908-1909	M42～T11年 1909-1922	T12～S7年 1923-1932	S8～S18年 1933-1943	S21～24年 1946-1949	S25～32年 1950-1957	S33～42年 1958-1967	S43～53年 1968-1978	S54年～H6年 1979-1994	H7年～ 1995-
	中文類	中文類	小分類	小分類	小分類	小分類	小分類	小分類	小分類	小分類	
心疾患(高血圧性を除く)	24,*44	29,*51	83-85,86	87-90	90-95	90-95	410-434	410-434	393-398, 410-429	393-398, 410-429	101-102.0, 105-109, 120-125, 127,130-151
慢性リウマチ性心疾患							410-416	410-416	393-398	393-398	105-109
急性心筋梗塞※							410	410	121-122
その他の虚血性心疾患※							411-414	411-414	120,124-125
慢性非リウマチ性心内臓疾患							421	421	424	424	134-138
心筋症							425	425	142
不整脈及び伝導障害※							433	433	427.2-427.9	426-427	144-149
心不全※							422	422	428	428	150
その他の心疾患							420, 430-432, 434	420, 430-432, 434	420-423, 426-427.1, 429	415-417, 420-423, 429	101-102.0, 127,130-133, 140,151
脳血管疾患	21	26	71-73	74-75,83	82	83	330-334	330-334	430-438	430-438	160-169
くも膜下出血※							330	330	430	430	160,169.0
脳出血※							331	331	431	431-432	161,169.1
脳梗塞※							332	332	432-434, 438.a	433-434, 437.7A-B	163,169.3
その他の脳血管疾患							333-334	333-334	435-437, 438.b	435-436, 437.0-6.8.9, 438	160-169の 上記以外

注:1) 死因名は第10回分類により、死因名、小分類、中分類は、第10回分類の死因基本分類表、死因簡単分類表に対応する。

2) *印はこの番号の一部であることを示す。このため変遷を観察する場合は数字を計上していない。

3) 明治32年～39年及び明治40,41年は同じ分類を使用しているが、分類番号が異なるのは、再掲を組み入れて通し番号にしているためである。

4) ※印は死因統計において選択死因と定められている死因である。

5) 心疾患について

① 昭和41年以前は狭心症を含まず、昭和54年以降は心臓麻痺、心臓衰弱を含む。

② 平成7年以降は、心臓併発症を伴うリウマチ熱(101)・心臓併発症を伴うリウマチ性舞蹈病(102.0)を含み、肺塞栓症(126)・その他の肺血管の疾患(128)を含まない。

6) 脳血管疾患について

① 昭和25年は、B22にB46.b(352)の一部、すなわちB22の後遺症及び1年以上経過したものを含めること。

② 平成7年以降は、能動静脈奇形の破裂(160.8の一部)を含み、一過性脳虚血(G45)を含まない。